

創業の精神をつなぐ

東日本大震災の発生から2年半が経ちました。

被災地では、復旧から復興へ着実に歩みを続けていますが、一方では、いまだに30万人近い避難者が元の生活を取り戻せずにいます。

当社は、今なお心労が続く被災者、被災地の生活が一日でも早く日常を取り戻せるよう、建設業者としての社会的責任を果たすべく、引き続き、復旧・復興支援に尽力してまいります。

時代のニーズに応える

当社は、震災発生直後から、港湾施設の復旧作業はもとより、津波堆積物の有効利用や水域の除染技術の確立に力を注いできました。

去る7月5日には、当社が開発した「ソイルセパレータ・マルチ工法」が栄えある国土技術開発賞の「最優秀賞」をいただきました。この受賞は、この工法の津波堆積物への適用が大きく評価されたことによります。

東日本大震災の発生以来、首都直下地震や南海トラフ巨大地震に対する防災意識が高まりを見せるとともに、事前防災の重要性・必要性が強く認識されることとなりました。

また、昨年12月の中央高速道路笹子トンネルでの天井板落下事故を受け、道路や橋、港湾施設、上下水道など老朽化が進む社会資本の維持管理・更新への対応が重要な課題になっています。

国民の命を守る社会資本の整備・維持は、建設業者にとって本業であるとともに、課せられた大きな使命です。これからも、当社が持つ技術を最大限に発揮して、時代のニーズに的確に対応していく所存です。

創業の精神を引き継いで

当社の創業は、創業者である浅野総一郎が、欧米視察の際に日本の港湾の脆弱性を痛感し、1908(明治41)年、神奈川県庁に約150万坪に及ぶ鶴見・川崎地先の海面埋め立てを申請したことに始まります。

一大工業用地の建設に思いを馳せた浅野総一郎の大きな夢は、その後、半世紀以上を経て京浜工業地帯として実現しました。浅野総一郎の不屈の精神を表すに相応

しい、七転び八起きの上を行く“九転十起”の人生を貫いた思いは、当社の経営理念である社是と相まって、当社の企業活動の根底に脈々と受け継がれています。

折しも今年には、当社が鶴見でポンプ浚渫船による埋立事業を開始してから100年、そして海外事業に進出してから50年にあたり、創業時の精神をつなぐ節目の年となります。

持続的成長企業をめざして

当社は、この4月、平成25年度を初年度とする3ヶ年の「中期経営計画」(2013年度～2015年度)を策定しました。

収益基盤の強化を掲げた前「中期経営計画」(2010年度～2012年度)における評価を踏まえ、この「中期経営計画」を着実に推進することにより、経営基盤を強化し、顧客と社会からの期待と信頼に応える持続的成長企業をめざしていきます。

引き続き、ステークホルダーの皆さまにおかれましては、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

本報告書は、当社のCSRに関する活動実績をまとめたものです。ご一読いただき、皆さまからの忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長

松尾正臣